**雨宝院**

[伝説]

伝承によると、雨宝院は空海（774–835）によって812年に創建されたとのことです。空海は密教の真言宗を創始した仏教の僧で、雨宝院も真言宗の寺です。空海はその時代で最も影響力のあった僧の1人で、宮中からの支援もありました。そのため、京都でいくつもの広大な寺を創建できたのです。雨宝院もそのようにして創建された大きな寺の1つですが、京都に壊滅的な被害をもたらした内戦の応仁の乱（1467–1477）で完全に破壊されてしまいました。現在の建造物は1788年の火災の後に再建されたものです。

雨宝院は、何世紀にもわたって西陣の織物職人の信仰を集めてきました。特に雨宝院を強く信仰したのは、この地域の染め職人たちです。雨宝院の井戸から湧く水を染料と混ぜると、絹の染まり方が最も綺麗だと言われていたからです。この井戸は、何人の職人が水を汲みにきても決して渇かないと考えられていました。

境内は、桜が咲いて大勢の人が集まる春先を除けば落ち着いており、どんな季節でも静かに物思いに耽るのに最適な場所です。雨宝院の桜の木には、御衣黄桜という蕾が緑の珍しい桜があります。この品種は江戸時代（1603–1867）に鑑賞目的で京都で開発されたものと考えられています。